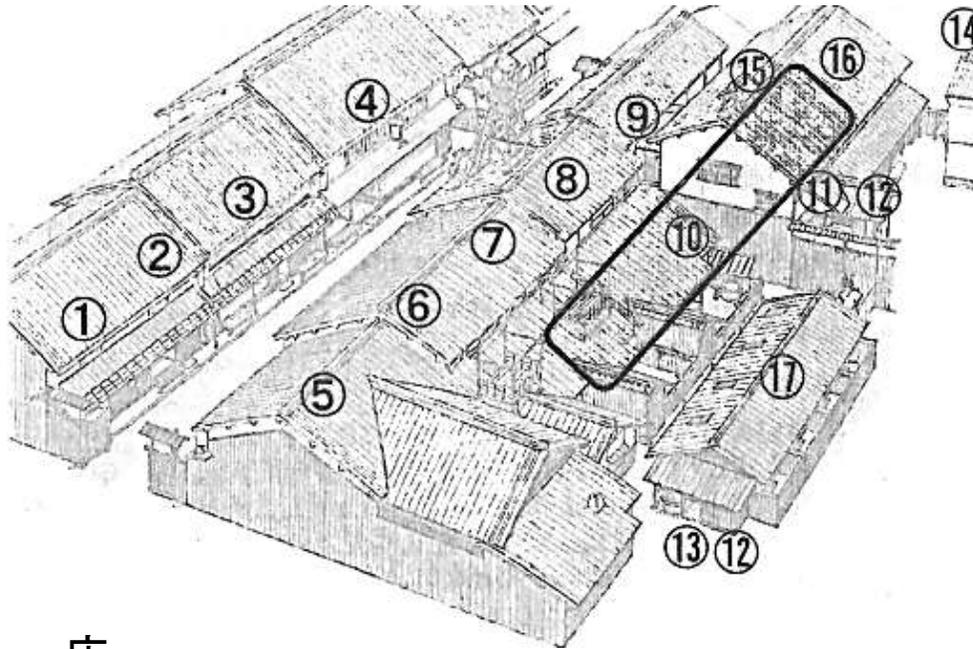


9階 江戸時代の大坂で昔のくらしを学ぼう

(今から**180**年くらい前、電気やガスがなかったころのくらし)



店

- ① 建具屋 戸、障子、襖など、家の中で使うものをあつかうお店
- ② 小間物屋 髪をむすぶものや、化粧品をあつかうお店
- ③ 唐物屋 外国のめずらしい品物をあつかうお店
- ④ 呉服屋 着物を新しく作ったり、古着をあつかうお店
- ⑤ 風呂屋 1回ずつお金をはらって入る、大きな共同のお風呂
- ⑥ 人形屋 お面や風車、人形などおもちゃがならんでいるお店
- ⑦ 本屋 本や、役者さんをかいた浮世絵をあつかうお店
- ⑧ 町会所 町の人が集まる場所。屋根の上には火のみやぐらがある
- ⑨ 薬屋 薬をつくって売るお店。看板商品は「ウルユス」

住まいとくらし

- ⑩ 台所 火や水を使って、料理をするところ。コンロのような「かまど」や流しがある
- ⑪ 風呂 底が釜で、湯船が木でできた五右衛門風呂。外には薪を燃やす焚口がある
- ⑫ 便所 中の入れ物にためておき、まとめてくみとる方式のトイレ。くみとったものは畑で肥料として使う
- ⑬ 井戸 洗濯や皿洗いなどの生活用水として使う
大坂では飲み水は川の水をくんで使っていた
- ⑭ 蔵 家や店の大事なものをしまっておく倉庫。火事のときも燃えないようにつくられている
- ⑮ けむり出し 料理の時に火を使って出た煙を外に出すために屋根に作った煙突のようなもの
- ⑯ 床の間 お客さんをむかえる部屋にある、季節にあわせた掛軸や飾り物をかざるための場所
- ⑰ 裏長屋 裏の通りにある、アパートのような建物。小さな1つの部屋で家族が暮らしていた

道具

- 火鉢 灰の中に炭を入れておいて、手を温めたり、お湯を沸かす為に使う道具
- 七輪 炭を燃やして、魚を焼くなど食べ物を調理するための道具。関西では「かんてき」とも呼ばれた
- 洗張りの板 季節の変わり目などに、着物をほどいて板にのりで貼って乾かし、また仕立て直した
- 行灯 油を燃料にした、照明の道具。風で火が消えないように紙でおおっている。